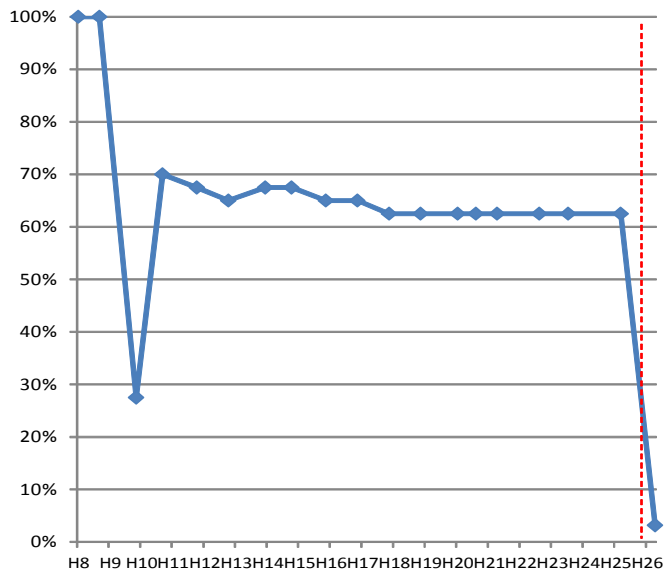


樹種名	ハナガガシ（別名：サツマガシ）	
科 目	ブナ科	
学 名	<i>Quercus hondae</i>	
分 布	都城市から高岡町にかけて多く分布している。 宮崎県以外では、鹿児島県、大分県、高知県、愛媛県に分布するが、個体数が少なく絶滅が心配されている貴重樹である。常緑高木。	
樹木特性	陽樹であり、暖地に生えるが、分布の限られている珍しい樹木である。 ハナガガシ（葉長櫨）はブナ科コナラ属アカガシ亜属の常緑高木。カシ類のなかではもっとも葉が細長いことからこの名がある。別名サツマガシ。	
用 途	器具・薪炭材として利用。	
植栽本数/面積 （植栽密度）	372 本／0.12ha (3,000 本／ha)	
特 徴	【樹 形】 雌雄同株、主幹は真っ直ぐに伸び、樹高20mに達して成長が早く、材が真円に近く、通直性にも優れている。幹はほぼ真直ぐにのび、樹皮は暗灰色でくの字に曲がる浅いひび割れが規則的に連なる。葉は互生、濃緑色でやや厚く皮革質で硬い。葉の長さは7~15cm、幅1.5~3cmで先端は細く尖り、基部はなめらかに葉柄に繋がる。葉柄の長さは約1cm、葉の中央から先端にかけてやや鋭い鋸歯がある。花は風媒花で花期は4月から5月、新枝の下部から雄花の花穂が垂れ下がる。果実のドングリは細長い卵形で殻斗（かくと）は深い杯型、翌年の10月から11月に熟す。	
試験地での様子	山引き苗を植栽したため、根茎が少なく、植付直後に枯死するものが多く発生し、次年度に補植を実施した。活着後は、病虫害被害等も見られず順調に生育している。	
被 害	特になし。	

ハナガガシ 現存率



【現存率】

植栽後 2 年目に枯死が発生した。翌年に補植を実施し、その後枯死は発生していない。

林内の照度調整を図るため平成 21 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 3.2%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

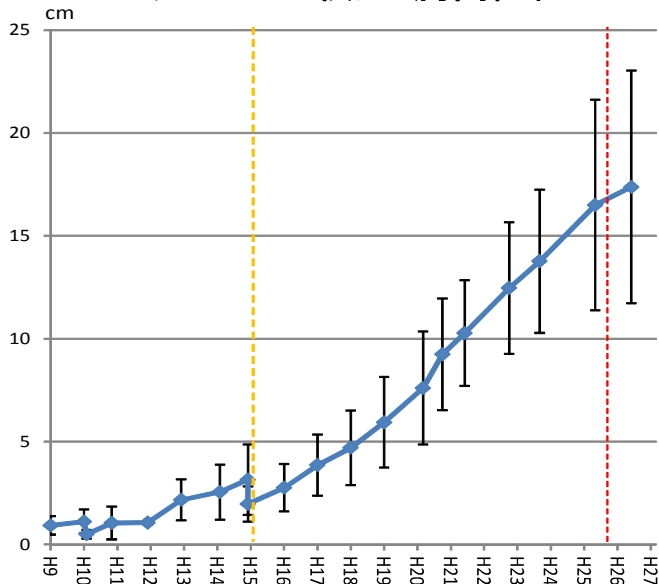
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 17.38 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ハナガガシ 根元・胸高直径



【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 13.53m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ハナガガシ 樹高

